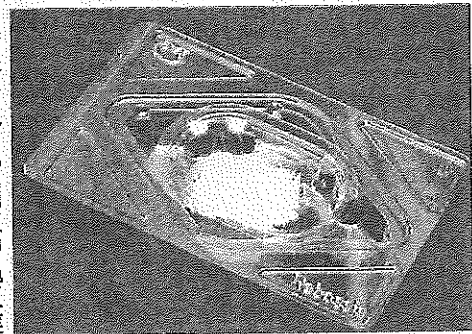


うるま市で人工骨研究

オルソリバース 製造も視野



オルソリバースが開発した綿状の人工骨「レボシス」(オルソリバース提供)

人工骨の研究開発を手掛ける医療機器ベンチャーの「ORTHOREBIRTH」(オルソリバース、横浜市、西川靖俊社長)は、2月初旬にうるま市の沖縄ライフサイエンス研究センターに研究所を開設した。同社は世界初の綿状の人工骨「レボシス」を開発・製造しており、米国で販売許可を得て、2月から出荷を始めている。沖縄では脊椎や歯科材向けの人工骨の開発などから始め、将来的には製造拠点としても視野に

入れる。国立沖縄工業高等専門学校とも共同研究していく。

レボシスは名古屋工業大学の研究を応用して開発。吸水や保水性に優れ、従来の顆粒状やシート状の人工骨に比べ、骨に合わせて成形しやすいのが特長だ。オルソリバースは今後、レボシスを基礎技術として、他の物質との混合利用や、挿入用の手術用機器の開発、再生医療分野への展開も目指す。

沖縄進出について西川社

長は「ライフサイエンス研究センターは、研究だけでなく製造もできることがメリットだ」と説明。「日本の医療機器の認知度はまだまだ低い。沖縄を集積地にし、世界商品を作りたい。将来的にはヨーロッパ、アジア向けの製造拠点をしていきたい」と抱負を語った。

うるま市で人工骨研究
「オルソリバース 製造も視野」